

# 平成 30 年度 東京大学まちづくり大学院演習第1(日常生活圏)

准教授 城所 哲夫  
非常勤講師 須永和久

## 1. 演習の狙い

- ・日常生活圏レベルの広がりを持つ地区を対象とするまちづくりの技法について、演習する。
- ・今年度は秋葉原駅周辺を演習の対象地とする。
- ・対象地区は、特色のある文化発信地、商業業務地である。
- ・駅前の大規模開発が終了し、ハードな基盤整備、施設整備は一段落し、地元においては、タウンマネジメント、都市観光の推進に注力している。
- ・近年、対象区域においては、廃校を活用した文化発信創造施設、ものづくり支援施設がオープンし、文化の発信創造、ものづくり支援としての機能も付加されている。また、新たな再開発事業や公共施設整備も進行している。
- ・一方、東京スカイツリーの開業、鉄道高架下利用の新たな展開、周辺の特色のあるまちづくり（徒蔵まちづくり）等の動きがある。
- ・上記の状況、地域の資源、周辺状況を踏まえて、2040 年代に向けて、秋葉原をクリエイティブタウンとして一層充実発展させることを目標として、街の将来像、将来像実現の方策を検討提案する。
- ・2040 年代に向けたクリエイティブタウンとしてのあり方及びその実現手法を検討提案することを通じて、地区単位のまちづくりの現況課題分析から計画及び実現手法の流れ、考え方、組み立て方法を習得することを演習の目的とする。

## 2. カリキュラム

### ①対象地区

- ・秋葉原駅周辺

### ②実施期間

- ・平成 30 年 9 月 29 日から 11 月 17 日の毎週土曜日、午後 1 時から 6 時、7 回。

### ③演習の進め方

- ・秋葉原駅周辺の将来像及び方向性を検討提案し、ランドデザインとしてまとめる。そしてランドデザインを実現する具体的なプロジェクトを検討提案する。
- ・1 グループ 4～5 人とし、3～4 グループに分けて検討する。

## ○「クリエイティブタウン秋葉原 2040」の検討作成

### ア.ランドデザイン（将来像）

- ・2040 年の日本、東京を踏まえた、クリエイティブタウンとしての街のあり方、方向性を提案する。

### イ.具体的なプロジェクト

- ・将来像を具体化する市街地構造、土地利用のゾーニング、施設整備、交通システム、タウンマネジメント等を提案する。

#### ④スケジュール(予定)

- ・ 7回実施する。

□ 9月 29 日：第 1 回：オリエンテーション：講義「クリエイティブタウンの理論と実践」  
(城所准教授)

講義後、秋葉原のイメージ、現況・課題の頭出し、クリエイティブタウンとは何か、都市計画・街づくりとして何が出来るかアイデア出しを行う。

□ 10月 6 日：第 2 回：松波道廣氏の講義「秋葉原の街の変遷」+現地見学ツアー

□ 10月 13 日：第 3 回：現状課題分析作業

□ 10月 20 日：第 4 回：ランドデザイン・プロジェクト検討作業

□ 10月 27 日：第 5 回：ランドデザイン及びプロジェクト骨子案中間発表

□ 11月 10 日：第 6 回：成果作成作業

□ 11月 17 日：第 7 回：最終成果発表

演習終了後、地元プレゼンテーションする機会を設ける可能性がある。

#### ⑤体制(案)

##### ア. まちづくり大学院

- ・ 城所哲夫 准教授
- ・ 須永和久 非常勤講師 (株式会社計画技術研究所代表取締役)

##### イ. 協力者 (予定)

- ・ 松波道廣氏 (秋葉原観光推進協会理事)
- ・ 秋葉原タウンマネジメント
- ・ 千代田区